

展覧会情報

企画展 「アイヌ語地名を歩く—山田秀三の地名研究から— 2008・渡島/檜山/津軽海峡」

会場 市立函館博物館

電話0138-23-5480

期間 10月9日(木)～11月16日(日)

「地図でたどる世界遺産II」

会場 岐阜県図書館世界分布図センター

電話058-275-5111

期間 8月30日(土)～10月30日(木)

「『日本名山図会』と川村寿庵」

会場 岩手県立博物館

電話019-661-2831

期間 10月11日(土)～11月24日(月)

巡検開催のご案内

■ 視察船「新東京丸」

東京都の視察船「新東京丸」で東京港を巡ります。通常の巡検と異なり、いくつかの制限事項がありますのでご注意ください。

開催日：10月2日(木)、10月9日(木)のいずれか

集合：午前9時30分、竹芝小型船ターミナル

参加費：無料(現地までの交通費、昼食代は自弁)

《参加申し込み方法》

締切：9月19日(金)午前中

ハガキまたはFAXにて下記をご記入いただき、お申し込み下さい。お電話でのお申し込みもお受けいたします。

①参加可能日(2日、9日もしくは両方)

②お名前、ご住所、電話番号(乗船者名簿に記入)

《注意事項》

①参加者の多い日で申し込みますが、空席状況によってはご希望に添えない場合があります。



②荒天の場合は中止になります。現地にて中止の場合がありますのでその際にご容赦下さい。

③開催日が決定いたしましたら、申込者全員に集合場所等の資料をお送りいたします。

■ 初冬の草加を歩く(仮称)

平成20年度第1回巡検を12月に開催いたします。お煎餅で有名な草加市内を歩きます。現在、ルート等を検討中です。

ご案内：伊藤 等先生(日本大学)

開催日：平成20年12月6日(土)

荒天の場合は12月20日(土)に順延

定員他：約20名。参加締切は11月28日(金)

申込み：電話 03-3262-1486 Fax. 03-3234-0872

mail chizujoho@gmail.com のいずれか

集合：東武伊勢崎線「松原団地」改札外 10:00

ルート：詳細は現在検討中です(以下は見学予定先)。

①伝統産業展示室(草加市文化会館内)

②渡辺教具製作所(地球儀の会社です。地球儀博物館を見学します)

③札幌河岸公園(旧日光街道)、甚左衛門堰

④おせん茶屋(宿風情の再現)

⑤市立歴史民俗資料館

参加費：1,000円(資料費等)。なお現地までの交通費、昼食代は各自ご負担下さい。

ご注意：軽快で歩きやすい服装でおいで下さい。天候や諸事情によりルート等を変更する場合があります。市街地ですので、車の通行にご注意下さい。参加者には集合場所と簡単なご案内をお送りします。

地図絡み

第34回 地形図の水際表現

帝京大学理事 井口悦男

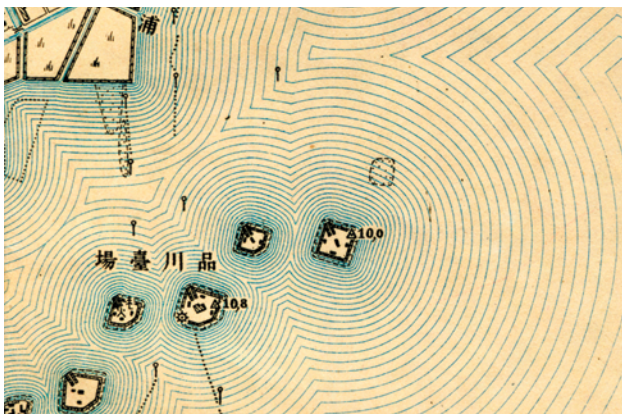
前回、蓮池表現のある中国「廣州」1万分1図を紹介のおり、比較として、日本作成の「平壤」図をあげた。その水辺(大同江)に、海岸と同様な、水色の波線の重なり見事な装飾線が見える。一方、廣州図の水辺は、単なる水色塗りつぶしであった。この差は、波線表現には、それなりの図描技術水準あって可能となることに外ならない。

日本では、少くとも明治20年以降、2万分1正式図の全国拡大から、途中5万分1に変更を経て、大正末一応全国に図が成立に至る。その間、各図の水際装飾線は、全て波線の打ち寄せる、微妙に変化する曲線方式によった。

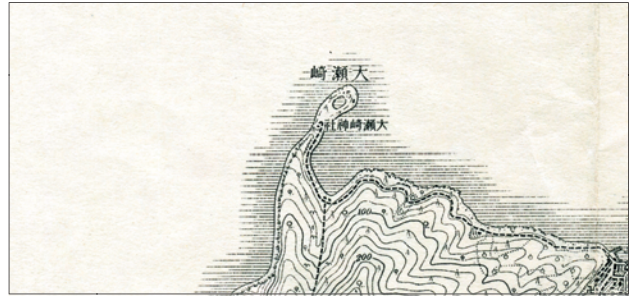
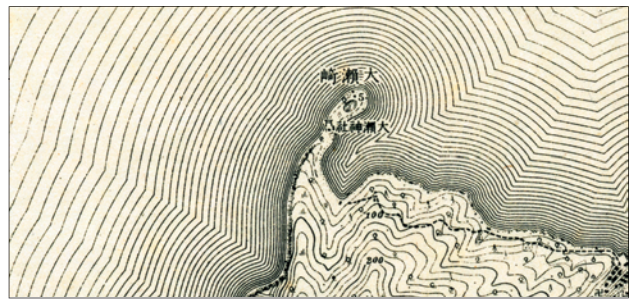
ここで、話変わるが、中学校に奉職し、行事用小冊子を作成するにあたり、先輩からの知恵として、図は等倍で描かず、2倍大とすることが、その描線を滑らかにし、手書きによる線の不統一性を、統一描にみせてくれると伝えられると共に、陸と海との境界をしめす海岸線を、1本の線だけで表現するに止めると、図の表現力として海岸線という認識が不明瞭になりやすく、何らかの方法で海側に補強、強調する図描の工夫が必要と教えられた。

この工夫の教えはずっと守り、海岸線表現には、海側に細かく斜線を入れるか、荒い砂子状に、二三重に点を散ばせることをしている。

改めてお断わりする迄もなく、波線の打ち寄せる装飾線が、陸水境界線強調を代表する優美な方式であるとともに、海岸線の形の複雑さに合わせた、複雑に屈曲する曲線から、沖合のおおらかなうねりを表わす曲線への無限とも言える一線毎変化した曲線の重なり



台場をとり巻く水際装飾の見事な水色円弧紋の重なり。
5万分1「東京東南部」T5修(2色刷)



第2次世界大戦末期に図の改訂作業推進のための工夫が含まれた、昭和17年図式による海岸線装飾(下)。比較のため、それ以前の大正6年図式のものもしめす(上、二十五本水線)。5万分1「沼津」S27応急修正及びS7部分修正 大瀬崎部分で比較

は、地形図描線の華と見られる(二十五本水線)。

第2次大戦下の昭和17(1942)年図式で、海岸線の図形変更、防波堤や埋立地の建設などによる装飾曲線の複雑な変更に対し、簡便な変更可能な装飾線への切替えが部分的に実施された。海岸線の海側に、東西方向に長短2線を交互に短く描入するものであった。

さらに、戦後、昭和40年代前後の色刷化とともに、一段と単純化され、水色塗りつぶしの面描となった。

この面描で特殊なものに、砂子を細かく水色で、沖合い側に表わして終わる方式で、海岸線から一定距離の描入に止め、その先は白描がある(顆粒水版)。優雅なこの描法をとるものに、明治31(1898)年撰河泉、陸軍特別大演習用図の面描色別図を見る。まだ正式図がなくて仮製2万分1から縮成修正して用意された。

(08.08.15)



面描色刷図の砂子風海岸線装飾(顆粒水版)
5万分1仮製「岸和田」M31縮成修正